

■**鈴木馬左也** **実業家。住友家に招聘されて、住友コンツェルンの確立を主導し、完遂直後に没した。**
すずきまさや
遣欧使節・1861＝ 日向国児湯郡高鍋城下で、高鍋藩家老秋月種節の四男に生まれる。

長兄は勤皇の志士となり、次兄は親戚黒水家の養子となって殖産興業に尽力、三兄は外交官になるなど、兄弟は皆優秀であつたが、

明治維新・1868＝ 7歳：この年、長兄が獄中の感染で病死、続いて母が急逝、母方の大叔父鈴木翔房が死去、その嗣養子も戊辰戦争で戦死したため、
戊辰戦争終・1869＝ 8歳：鈴木家の養子となり、家を継ぐ。
初の日刊新聞1870＝ **9歳**：

明治6年政変 1873＝12歳： 藩校明倫堂を振り出しに、鹿児島医学校経て、

三つの内乱・1876＝15歳：宮崎中学を卒業し、金沢の啓明学校に入学するが、
西南戦争・1877＝16歳：実父が西南戦争で西郷軍に捕らえられ獄死。その衝撃からか、退学し、
大久保暗殺・1878＝17歳：東京大学予備門に入学、
琉球処分・1879＝**18歳**：

明治14年政変1881＝20歳：

岩倉具視没・1883＝22歳：帝国大学法科大学政治学科に入学、

国民之友始・1887＝26歳：卒業して、**内務省に入り、高等文官試験合格。**
初の対等条約1888＝**27歳**：
帝国憲法発布1889＝28歳：愛媛県書記官に赴任、県の主務会計官を勤め、
帝国議会始・1890＝29歳：**別子銅山開坑200年祭に来賓として招かれたことから、住友家の知遇を得、**
大阪府書記官を経て、

日清戦争始・1894＝33歳：農商務省に転じ、参事官となるが、
日清戦争終・1895＝34歳：**住友家の要請により退官、住友本店にはいり、条件は3年間の欧米視察であつたが、**

八幡製鉄始・1897＝**36歳**：***約1年9ヵ月で帰国、住友本店理事に就任。**
参禅に打込み、剣道を山岡鉄太郎と榊原健吉に、柔道柔術を嘉納治五郎と渋川伴五郎に習う。
Bushidou・1899＝38歳：**別子鉱業所支配人を兼ね、直後に起きた大水害の救済に尽力、**
鉱害問題の処理にあつたのち、

教科書疑獄・1902＝41歳：**本店支配人に移った。当時、住友家の事業は伊庭貞剛総理事の統轄下にあり、鈴木と並ぶ理事の地位には河上謹一元日本銀行理事と田辺貞吉がいたが、**
日露戦争始・1904＝43歳：***かねて少壮者の抜擢を主張していた伊庭が河上・田辺とともに勇退、あとを託されて、総理事となり、**
日露戦争終・1905＝44歳：**伊庭の遺業たる四阪島精錬所の完成とともに、本格操業を開始。**
満鉄発足・1906＝**45歳**：
以後18年間重責を担い、受験者には必ず自ら面接、外部の人材(大部分は官僚)を大量に中途採用するなどして、住友財閥の巨大化と事業の多角的発展に貢献して行く。

伊藤博文暗殺1909＝48歳：**新居浜農民代表との協議会の席上で煙害の根本解決を宣言。事業多角化のため、本店を総本店と改称し、**

大逆事件判決1911＝50歳：**住友電線製造所(住友電工)を設立、**
明治天皇没・1912＝51歳：**伸銅所(住友金属)で継ぎ目無し鋼管の製造に着手して、海軍の復水管需要に応え、**
大正政変・1913＝52歳：**住友肥料製造所(住友化学)を設立、**

21ヶ条要求・1915＝**54歳**：**大阪の臨海工業地帯建設のため大阪北港を設立、別子銅山の電源開発のため土佐吉野川水力電気を設立。**
ロシア革命・1917＝56歳：***この年から、伊庭の方針を踏襲して、全国的に山林事業を起こすとともに、社員の精神教育に力を入れ、**
剣道・参禅を奨励し、住友家家長吉左衛門友純に対する儀礼を重視して、内部の統一を図る。
本格政党内閣1918＝57歳：旧住友本邸跡に社員独身寮建設。**日米板硝子(日本板硝子)を設立するなどの諸分野への拡大を指揮、**
大暴落・・・1920＝59歳：**第一次世界大戦中の好況に乗じた海外貿易事業進出の提案を経験不足理由に拒否し、商社設立禁止宣言。**
原敬首相暗殺1921＝60歳：**日本電気に資本参加し、住友家の個人商店のままだった総本店を住友合資会社に改組、その傘下に株式会社化した諸事業が組織されるコンツェルン体制を布いたが、脳溢血で倒れ、**
水平社結成・1922＝61歳：***再び病に倒れて、総理事を退き、没した。**